



2026 年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 一 正 蒲 鉾 株 式 会 社  
代表者名 代表取締役  
社長執行役員 野 崎 正 博  
(コード番号 2904 スタンダード市場)  
問合せ先 取締役 常務執行役員 コーポレート  
事業統括本部長 高 島 正 樹  
(TEL 025 - 270 - 7111)

### ICHIMASA30 ビジョン 2nd Stage2026-2035 「第三次中期経営計画 2026-2030」策定に関するお知らせ

当社は、ICHIMASA30 ビジョン 2nd Stage2026-2035 における、2026 年 7 月から 2031 年 6 月までの 5 年間の「第三次中期経営計画 2026-2030」を策定いたしましたので、お知らせします。

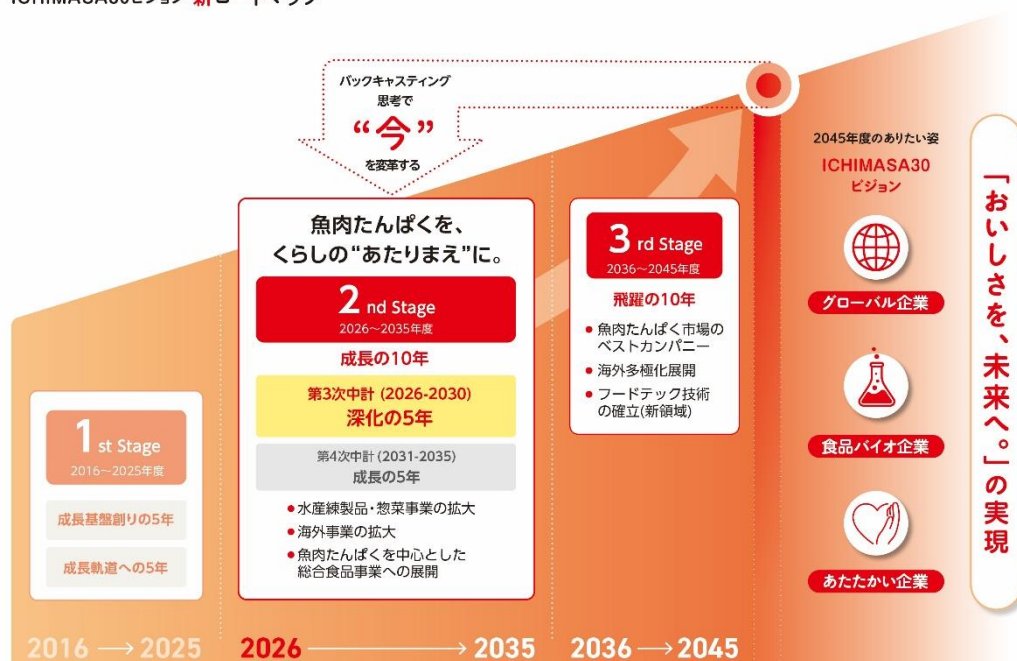
#### 記

#### 1. ICHIMASA30 ビジョン 2nd Stage2026-2035 と第三次中期経営計画の位置づけ

当社グループは、2045 年度のありたい姿を「ICHIMASA30 ビジョン」として掲げ、その実現に向けた 30 年間の 10 年ごとの 3 つのステージに区分しています。

「1st Stage2016-2025」の 10 年間を終えた現在、国内の人口減少の加速、国際情勢の変化、原材料・エネルギー価格の構造的な上昇など、策定時の想定を超える環境変化が生じています。「2nd Stage2026-2035」をスタートするにあたり、当社はこれらの変化を前提として 2045 年度のありたい姿をあらためて定義し、ビジョン達成に向けたロードマップを更新しました。

#### ICHIMASA30ビジョン 新ロードマップ



「2nd Stage2026-2035」は、『魚肉たんぱくを、くらしの“あたりまえ”に。』をテーマに掲げ、人と社会の“より良い日常”を支える、新しいタンパク質文化の創造を目指します。水産練製品のもつ嗜好性や機能性に加え、健康性・環境性を兼ね備えた、未来の食を支えるタンパク源として『魚肉たんぱく食品』の価値を広げていきます。

第三次中期経営計画は、「2nd Stage2026-2035（成長の10年）」の前半5年間にあたります。この5年間で「深化の5年」と位置付け、構造改革により稼ぐ力を再構築し、生み出した原資を成長戦略へ積極的に投下します。

## 2. 第三次中期経営計画 2026-2030「深化の5年」の概要と主な取組み

「深化の5年」は、Phase 1（2026-2028）の「成長基盤創りの3年」と、Phase 2（2029-2030）の「成長軌道への2年」に区分しています。最初の3年で既存事業の構造改革により収益基盤を強化し、営業キャッシュフローの創出を図ります。生み出した原資を成長投資に投下し、残りの2年で成長軌道への移行を実現し、持続的な企業価値の向上を目指します。

### 【基本方針】

- ・成長戦略：既存事業と海外事業・新規事業・インオーガニック成長
- ・構造改革：収益構造改革、営業キャッシュフロー創出の取組み推進
- ・経営基盤強化：ホールディングス体制移行によるグループ経営の高度化と企業価値の最大化



## 3. 数値目標

第三次中期経営計画では、下表の業績目標を掲げています。

| 項目               | 2031年6月期業績目標  |
|------------------|---------------|
| 売上高              | 450億円(CAGR5%) |
| 営業利益             | 20億円(営業利益率5%) |
| 営業キャッシュフロー(5年累計) | 152億円         |
| 自己資本利益率(ROE)     | 8.0%          |
| 投下資本利益率(ROIC)    | 6.0%          |

なお、詳細につきましては、「[第三次中期経営計画 2026-2030](#)」をご参照ください。

当社グループの経営上の目標達成を判断するための客観的な指標は上記のとおりですが、各数値については現時点において予測できる事情等を基礎とした合理的な判断に基づくものであり、その達成を保証するものではありません。

以 上